

去歲九月二十七日在黃州生子遯小名幹兒頽然穎異至今年七月二十八日病亡於金陵作二詩哭之 其一 (二〇八四年七月二十八日)

去歲九月二十七日黃州にありて子を生む。遯小名幹兒頽然穎異、今年七月二十八日に至り金陵に病亡す、二詩を作りて之を哭す。

- 1 吾年四十九 吾が年 四十九
- 2 羈旅失幼子 羈旅に幼子を失す
- 3 幼子眞吾兒 幼子 眞に吾が兒
- 4 眉角生已似 眉角 生れながら已に似る
- 5 末期觀所好 未だ所好を觀るに期せざるに
- 6 蹠躑逐書史 蹠躑書史を逐ふ
- 7 搖頭却梨栗 頭を揺かし梨栗を却け
- 8 似識非分恥 識るに似たり 非分恥を
- 9 吾老常鮮歡 吾老いて 常に歡鮮し
- 10 頼此一笑喜 此の 一笑 喜を頼ひとす
- 11 忽然遭奪去 忽然として奪去に遭ふ
- 12 惡業我累爾 惡業 我が累のみ
- 13 衣薪那免俗 薪を衣にす 那ぞ俗を免れん
- 14 變滅須臾耳 變滅 須臾のみ
- 15 歸來懷抱空 歸來 懷抱空し
- 16 老淚如瀉水 老淚 瀉水の如し

【通釈】私は齡四十九にして、旅先で男兒を失った。その子は生まれ落ちた時から顔のつくりがわたくしにそっくりで、これぞ我が子と思えた。生まれて一年に満たないので、好きなものを試さないでしまったが、ひごろ本をつかもうとして這い回るのだった。しかも梨や栗などは頭をふって退けて、身にそぐわぬものとして恥じるわきまえを持っているかのようであった。年老いたわたくしは平常、心を喜ばすものもなく。まったくこの子のおかげで笑いを誘われていた。それがいきなり天に奪い去られたのは、わたくしの惡業が、お前をまきぞえにしたのであろう。おまえを葬るのに。薪をかむせて野晒しにしたのは、(貧乏で棺槨を整えてやれなかったからであって)凡俗の慣習からの脱却をはかってどころではないのだ。かくては形骸はたちまち変じ消えてゆくことであろう。野辺の送りから帰ってくると、ことさらにむなうところの空虚をおぼえ、老いの涙は傾け注いだ水さながらにしとど垂れてとどまらない。

【語釈】遯：朝雲が生んだ子。頽然：たけたかきさま穎異：すぐれてかしこいこと。羈旅：旅行。奇遇して客分となること。眉角：眉の先。蹠躑：よろめくさま。非分：自分の分限ではない。分外の望。衣薪：《易繫辭下》に古之葬者 厚衣之以薪 葬之中野と。變滅：変化してなくなる。懷抱：胸。胸と腕が前方に抱く空間。

国会図書館 国訳漢文大成より抄出 通訳 蘇東坡近藤光男より抄出

其二

- 1 我淚猶可拭
- 2 日遠當日忘
- 3 母哭不可聞
- 4 欲與汝俱亡
- 5 故衣尙懸架
- 6 漲乳已流床
- 7 感此欲忘生
- 8 一臥終日僵
- 9 中年忝聞道
- 10 夢幻講已詳
- 11 儲藥如邱山
- 12 臨病更求方
- 13 仍將恩愛刃
- 14 割此衰老腸
- 15 知迷欲自反
- 16 一慟送餘傷

我が涙猶ほ拭ふ可し
 日に遠く当に日に忘るべし
 母哭は聞く可からず
 汝と俱に亡びんと欲す
 故衣尚ほ架に懸かり
 漲乳已に床に流る
 此に感じて生を忘れんと欲す
 一たび臥して終日僵る
 中年忝なくも道を聞き
 夢幻講すること已に詳かなり
 薬を儲ふる 邱山の如く
 病に臨んで更に方を求む
 仍ほ 恩愛の刃を將て
 此の衰老の腸を割く
 迷を知つては自ら反らんと欲す
 一慟して 余傷を送らん

【通釈】わたくしの涙はまだぬぐうこともできよう。日がたつにつれて忘れるであろうから。しかし、いつそおまえと共に死にたいものをとって哭する母の声は聞くに堪えない。赤ん坊に着せていた着物は 今も衣桁にかかっており、張りつめた母乳はにじみ出てベッドをぬらしている。あまりに、大きなシヨックを受けて、ほとんど生きる希望を失い、寝込んだつきりで終日伏せている母。しかし、この母は幸せにも中年になって仏の教えを聞き、人生の夢なることはよくよく習い覚えてはいるはずである。しかも医薬は山のように用意していたうえ、あの子が病気になる時は、新たに処方を整えもしたのだった。それでもなお(子を亡った母は慟哭して)恩愛の刃を持ってこの衰老の身のはらわたを割くのである。さあ、心の迷いと気づいたら、自らの力でたちかえろう。今ひとたびともどもに慟哭することによって、心に残る悲しみを洗い流そうではないか。

【語釈】故衣：病中哭金鑾子 白居易「故衣猶架上，殘藥尚頭邊。」

忝：謙辞。そのことを恥ずかしく思うの意。仍：俺にも拘らずやはり。慟：慟哭。

蘇東坡近藤光男より抄出

洗兒戲作

兒を洗い戯れに作る 第十五回で講義

元豊六年(一〇八三)十月 中国名詩選(下)川合康三 三一六頁

- 人皆養子望聰明
- 我被聰明誤一生
- 惟願孩兒愚且魯
- 無災無難到公卿

人皆な子を養いて聰明を望む
 我は聡明に一生を誤らる
 惟だ願う 孩兒の愚且つ魯にして
 災無く難無く公卿に到らんことを